原画展示台の型紙

片面印刷　・　A4 縦　・　倍率 100%　|　切る前に下の 50 mm を測る

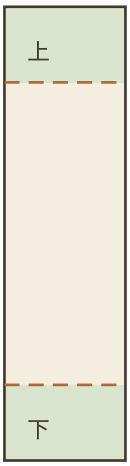
A　原画パネル

74 × 74 mm

周囲の枠ごと切る

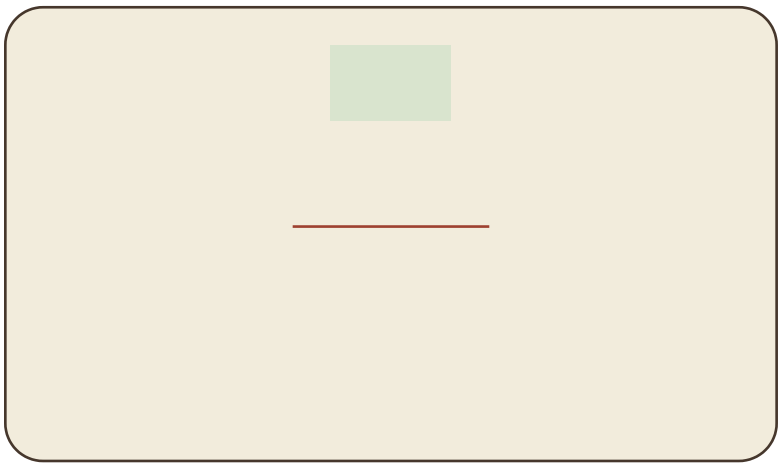


C　背面の支え



B　台座

102 × 60 mm　|　図の上側が奥



一本の切り込み

実線　外周を切る

破線　折り筋

薄緑　接着位置

50 mm　両端の目盛の中心間を測定

B 中央の赤茶線は長さ 26 mm。線上だけを切り、紙片は抜き取りません。

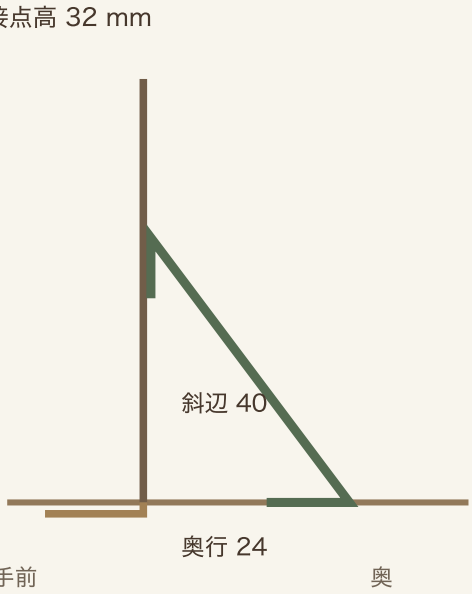
組み立てる

用意するもの　厚紙 160–220 g/m²（試用候補）・定規・はさみ・カッター・マット・紙用のり

正面から見た完成図



支えの断面（模式図）



完成時の設計寸法　幅 102 × 奥行 60 × 高さ 約 74 mm

01　印刷と切り出し

型紙の 50 mm を実測し、A・B・C の外周を切る。B の赤茶線に切り込みを入れる。
刃物はマット上で扱う。子どもと作る場合、切り込みは大人が担当する。

02　パネルを立てる

A の舌を折り筋でいったん曲げて戻し、B の上から通す。原画を手前へ向ける。
台座の裏で舌を手前に 90° 折る。台座に触れる面にのりを薄く塗って押さえる。

03　支えを仮合わせする

C の両端 10 mm を折る。下端を B の緑面に重ね、折り筋を奥側の縁に置く。
斜辺を原画の裏へ立ち上げ、上端の折り筋を台座から 32 mm の高さに合わせる。

04　固定して乾かす

上ののりしろはパネル裏に沿って下向き、下ののりしろは台座上で手前向きにする。
パネルを直角に整え、接触面に薄くのりを塗る。乾燥後に浮き・傾き・転倒を確認。

立体化の判断票

本人確認用　｜　現段階は紙製原画展示台まで。造形に進む際は、対象と範囲を個別に承認する。

基準画・視点

11/16 原画を照合基準にする。仕様書が言及する横・後ろの設定画は本キット未収録。

採用する各視点の原本・版・使用範囲を本人が指定。見えない厚みや輪郭は保留。

顔・姿勢

小さな目、体色、輪郭、頭のたけのこ一つ、しっぽを描かない仕様を保持。

横向きの目は 11/05 仕様書に従う。姿勢と各視点での見え方は本人が承認。

寸法・材料

旧案の全高 65 mm は仮値。用途、全高の測定基準、台座の有無を先に決める。

樹脂・塗膜・接着材の候補ごとに材質資料、色見本、耐久性、変形を比較。

権利・委託

原画の利用範囲、立体への翻案、製造者へのデータ提供、販売地域・期間を確認。

本人と権利者の承認記録、原型・金型の帰属、データ保管・再利用条件を残す。

安全・用途

観賞用か玩具か、対象年齢と流通地域を確定。適用要件と試験は専門先に確認。

たけのこ先端、脱落片、転倒、塗膜、梱包時の破損を試作品で検査し記録。

量産・受入

数量・予算・納期と金型費を確認。分割線、最小肉厚、公差、塗り分けを協議。

限度見本、色差、検品数、欠陥・再製作条件を合意し、初品を本人が確認。

現在の判断　個別承認待ち

本人記入欄	対象・許可する工程	参照版
判断日	承認者	条件・保留点